

【専大スポーツ】 <https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

専大スポーツ

No. 452

専大スポーツ
編集部
公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow



快挙を喜ぶ部員たち

殊勲賞

男子木塚 女子出澤

春季関東学生卓球リーグ戦(5月9〜25日、埼玉県・所沢市民体育館ほか)で、男子は5シーズンぶり31回目、女子は3シーズンぶり44回目のリーグ制覇を果たした。専大の男女そろっての優勝は1988年の秋季リーグ戦以来、36年ぶりの快挙となる。

高宮啓監督は「男女で、ここで簡単に負けての優勝を一番の目標にしていた。達成できて本当に良かった」と喜んだ。

男子主将の野田颯太(文4・育英高)も「うれしい。ずっと負けていた早大にも勝ち、自分たちができることは全てやったのが良かった」と安堵の笑みを浮かべた。

ポイントは大戦。1〜3の状態から後続2人が粘って3〜3とした。結果的に黒星となったが「内容のある負け方だった」



出澤の勝利に沸く部員たち

柔道 ス페인・ジュニア国際大会

鎌倉 2度目のV



国際大会二つ目の金メダルを獲得した鎌倉

5月18、19日に行われた柔道のスペイン・ジュニア国際大会(マラガ・ジュニア・ヨーロッパアンカップ2024)で、男子73kg級に出場した鎌倉啓太郎(経営2・習志野)が優勝を果たした。高が優勝を果した。昨年のチェコ・ジュニア国際大会81kg級に続き、国際大会で2度目の優勝となった。

「焦らずゆっくり、自分のやるべきことに集中し、焦る気持ちとうまく向き合うことが求め

られた。試合では、外国人選手に対して力技で勝負せず、組み際などで自分の技で終わることを実行できた一方、攻め方や組み手のワンパターン化といった新たな課題が見つかった。

鎌倉は「優勝できて良かったが、それ以上に課題がたくさん見つかった大会だった。この経験を次に生かしたい」と振り返った。

今後の目標については「出場する全ての試合に勝利したい。そのために日々の練習から妥協せず、自分のペースでやっていきたい」と強い思いを語った。

(小池佳欧・文3)

マイナ 力走

2部5000mで2位



先頭集団で果敢なレースを展開したマイナ

期待のルーキー

関東学生陸上競技対校選手権大会(5月9〜12日、新宿区・国立競技場)

グループのペースが一気に上がるなかで3番手に付けると、残り300mでトップに立った。大きなストライドと持ち前のスピードを生かし、鶴川正也選手(青学大)、ブライアン・キフトゥー・ブシユアキトゥ選手(麗澤大)との三つどもえのスパイク勝負。3着だったが、2着の失格で繰り上がった。

「この場所を走ることができて、とてもうれしい」と自身初の国立競技場でのレースを楽しみつつ、優勝に届かなかったことを「勝たなかったのが満足はしていない」と悔しさをあらわにした。

(倉林光琉・法1)



期待に応える活躍を見せた木塚

写真も)

個人では、男子の木塚陽斗(文1・明豊高)が殊勲賞・優秀選手賞・最優秀新人賞の三つを受賞。野田も優秀選手賞に選出された。

女子では、エース兼キャプテンとして奮闘した出澤が殊勲賞・優秀選手賞を獲得。出澤・首藤成美(文1・希望が丘高)組が最優秀ペア賞に選ばれた。

7月の全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部にも期待だ。

(河上明来海・文4)

福住が健闘

プロ・アマ大会 3位に入賞

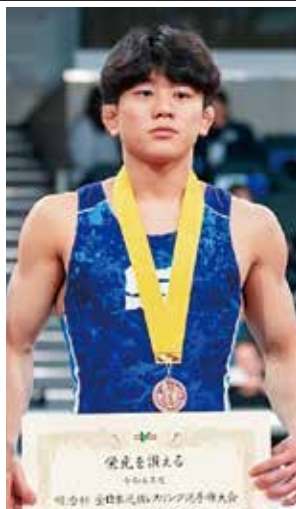
ゴルフ部の福住修(経営4・明徳義塾高)がプロ・アマ大会で3位入賞を果たした。

ゴルフ部の福住修(経営4・明徳義塾高)がプロ・アマ大会で3位入賞を果たした。

男子が昨年と同じく4位に入り、全国大学対抗戦の出場を決めた。

福住修は「自分を含め、本番でスコアを伸ばすことができなかったが、下級生の成長を感じることができた。さらに練習の量・質を高めていきたい」と話した。(河上)

グレコ55kg級 伊藤3位



表彰台に立った伊藤

が、全日本の舞台で入賞できたことを自信にしたい」と振り返った。今大会の結果を受け止め、次の大会では頂点を目指す。

グレコ67kg級では、西田衛人(経営4・華僑工高)が順位決定トーナメントの結果、5位となった。(小池)